

月報だより

月報だよりの原稿は毎月20日締切、翌月に発行の「天文月報」に掲載致します。校正をお願いしておりますので、締切日よりなるべく早めにお申し込み下さい。

e-mailで gpjimu@tenmon.or.jp 宛、なお、原稿も必ず0422-31-5487迄Faxでお送り下さい。

人事公募

標準書式：なるべく、以下の項目にしたがってご投稿下さい。結果は必ずお知らせください。

1. 募集人員（ポスト・人数など）、2. (1) 所属部門・所属講座、(2) 勤務地、3. 専門分野、4. 職務内容・担当科目、5. (1) 着任時期、(2) 任期、6. 応募資格、7. 提出書類、8. 応募締切・受付期間、9. (1) 提出先、(2) 問合せ先、10. 応募上の注意、11. その他（待遇など）

美星天文台 指導員 募集要項

美星天文台は、晴天率・シーイング・夜空の暗さなど国内有数の総合的な天体観測環境の良さを生かして、一般市民への公開はもちろん、アマチュアの支援と育成、観測研究を通じた天文学への寄与を目的として、101cm望遠鏡と窒素冷却式CCDカメラ・分光器・測光器などの観測装置を備えた公開天文台です。また、日本の中世の「むら」を再現した歴史公園「中世夢が原」、地球近傍小惑星とスペース・デブリを観測する美星スペースガードセンターが隣接して、協力関係にあります。この天文台の指導員を以下の要領で募集します。

1. 1名
2. (1) 美星天文台
4. 夜間観望会の指導・受付業務、館内の展示やホームページの更新と解説、週末深夜の101cm望遠鏡貸出の対応、イベントの運営ほか公開天文台運営全般に渡る業務。101cm望遠鏡運用のため、観測装置の取り扱い、一般の観測者への指導、観

測装置の管理ができることが望まれます。また、近隣施設（中世夢が原、美星スペースガードセンター）の業務補助もおこないます。

5. (1) 2000年8月1日の予定、(2) 3年
6. 大学卒業程度の天文学の素養を持ち、一般市民相手の星空案内・アマチュアの支援ができ、天文の教育・普及・研究の全ての分野に意欲があること。さらに、天文台運営・観測にかかわる環境整備の補助や、受付業務、隣接施設の業務の補助にも対応できること。2000年4月1日現在で、満28才以下。若い方が望ましい。
7. (1) 申込書（所定の応募用紙に記入したもの）美星天文台に請求するか、ホームページから様式をダウンロード、印刷して利用してください。ダウンロード先は、問い合わせ先参照。(2) 履歴書(3) 最終学歴の成績証明書と卒業証明書(4) 美星天文台でしてみたいこと（抱負）を、400字詰め原稿用紙2、3枚程度で、天文学を目指した動機、研究歴（アマチュア歴も可）なども含めた内容にして下さい。(5) これまでの実績を示す物、例えば・研究論文（卒業論文・学位論文の写しなど、共著の場合は分担した役割がわかるような説明を添付すること）・工作物（図面・写真・説明書・リスト等用意できる範囲で）製作年齢、分野（直接天文学に関係しないものでも可）を問わない。
8. 2000年5月30日必着
9. (1) 美星天文台（住所は上記）封筒の表に「職員応募書類在中」と朱書してください。
9. (2) 美星天文台 綾仁(あやに)
〒714-1411 岡山県小田郡美星町大倉1723-70
電話 0866 (87) 4222
FAX 0866 (87) 4224
e-mail ayani@bao.go.jp
ホームページ
<http://www.oka.urban.ne.jp/home/bao/>
応募用紙
<http://www.oka.urban.ne.jp/home/bao/oubo/youshi.html>
11. <待遇> 夢が原管理協会 1号職員
<選考方法> 1次選考 書類審査
2次選考 面接
(2000年6月中旬に通知)

人事公募結果

1. 掲載号
2. 結果（前所属）
3. 着任時期

詳細問い合わせ先：(財)宇宙環境利用推進センター宇宙実験推進部担当：米ノ野村
〒169-8624 東京都新宿区西早稲田 3-30-16
TEL: (03) 5273-2442 FAX:(03)5273-0705
(参考) 宇宙開発事業団ホームページ：
<http://jem.tksc.nasda.go.jp/utiliz/workshop/index.html>

名古屋大学太陽地球環境研究所教官

1. 第92巻4号
2. 藤本和彦（名大STE研）
3. 2000年1月1日

名古屋大学太陽地球環境研究所教官

1. 第93巻2号
2. 塔 隆志（エコールポリテクニク）
3. 2000年6月1日

京都大学基礎物理学研究所助教授

1. 第92巻9号
2. 田中貴浩（阪大）
3. 2000年4月1日

研究会・集会案内

**第22回宇宙ステーション利用計画
ワークショップ**

開催日時：平成12年6月28日(水)9:30～17:00
6月29日(木)9:30～17:30
6月30日(金)9:30～17:10

開催場所：砂防会館 シェーンバッハ・砂防
(〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-5)

会合の内容：宇宙ステーション利用に関する我が国の推進体制、宇宙環境利用研究の実施状況等について、利用者の理解を深め、利用の拡大を図るとともに、利用者の意見をとりまとめ、今後の宇宙ステーションの利用計画等に反映する。

主催者名：科学技術庁（予定）、宇宙開発事業団
協賛・後援団体名：28の学会の協賛（予定）
参加費：無料

**ふれあいサイエンスプログラム「星の誕生を
観測しよう」開催のお知らせ**

天の川には太陽のような星が2千億個もあり、天の川の中では今も新しい星々が次々と誕生しています。このプログラムは、宇宙空間で星々が誕生している場所を参加者の皆さんが実際に電波望遠鏡で観測することにより、天文学の最先端の研究を体験してもらうことを目的としています。観測には、チリ共和国（南アメリカ）のラス・カンパナス天文台にある名古屋大学の「なんてん」電波望遠鏡を使用します。チリと日本とをインターネットで結び、参加者の皆さんに星の「たまご」や星の「赤ちゃん」の観測計画の立案からデータ処理までを体験していただきます。宇宙と太陽系のなりたち、星の誕生のしくみ、望遠鏡のしくみなどについての基礎知識を学ぶと同時に、観測結果について発表しあい、議論することによって一層理解を深めます。詳しくは下記の連絡先におたずね下さい。

開催期間：平成12年8月3日(木)、4日(金)、5日(土)
会場：名古屋大学理学部（名古屋市千種区不老町）
対象：中学生 20名
締切：平成12年6月23日(金)（必着）

応募方法：氏名（ふりがな）、保護者氏名（ふりがな）、生年月日、性別、住所、（連絡先）および電話番号、学校名、学年、希望する動機を800字程度でまとめて、封書またはFAXにてお送りください。なお、定員オーバーの際は、抽選いたします。

連絡先：〒464-8602 名古屋市千種区不老町
名古屋大学大学院理学研究科天体物理学研究室
福井康雄、水野 亮（あきら）
FAX: 052-782-3951

主催：日本学術振興会
名古屋大学大学院理学研究科天体物理学研究室

第25回光学シンポジウム

—光学システムおよび光学素子の設計、製作、評価を中心として—

- 日時：2000年6月22日(木)9:30～17:15,
23日(金)9:30～16:35
(懇親会：6月22日(木)17:30～)
- 場所：東京大学生産技術研究所第1会議室（東京都港区六本木7-22-1）
- 主催：日本光学会（応用物理学会）
- 協賛：日本天文学会 他
- 参加費：日本光学会会員3000円、応物又は協賛学会員・賛助会員4000円、日本光学会学生会員無料、非会員（一般6000円、学生1000円）。
- 問合せ先：坂田肇 実行委員長
キヤノン（株）中央研究所
E-mail：opsym@crc.canon.co.jp
TEL：046-247-2111(ext.8303)
FAX：046-248-0306
- WWW：http://www.soc.nacsis.ac.jp/osj-ap/sympo.html

Optic japan 2000

日本光学会年次学術講演会

会場：北見工業大学

〒090-8507 北見市公園町165

日程：2000年10月7日(火)午前9時～

10月8日(水)～夕方

*7日夕方に懇親会を予定

TOPICS：光設計、光計測、画像工学、視覚光学、位相共役光学、光学記録、医用光学など

締切：2000年6月30日（論文申込み）

2000年8月10日（原稿）

2000年8月30日（参加申し込み）

Website：http://infmdl.cs.kitami-it.ac.jp/oj2000

E-mail：oj2kinfo@nrlm.go.jp

高校生向け宿泊体験学習会

「君が天文学者になる4日間

～宇宙からの虹をつかまえよう～

国立天文台三鷹キャンパスでは、来る8月1日～4日にスター・ウィーク関連事業として、高校生を対象

にした宿泊体験学習会を行います。2回目の今回は、日本学術振興会が主催する「ふれあいサイエンス」の一環として実施するもので、文部省科学研究費から援助を受けています。

「君が天文学者になる4日間」では、全国から集まった高校生が、4人でチームを作り、若手研究者の支援のもと、協力して宇宙の謎解きに挑戦します。今年度のテーマは、宇宙からの虹（スペクトルまたは色についての情報）の解析です。チームごとに研究テーマを決めることから始まり、計画の立案、観測、データ解析、研究発表まですべてを高校生自身に体験してもらいます。主旨ご理解の上、ご支援・ご協力よろしくお願ひします。

開催期間：8月1日(火)～4日(金)（3泊4日）

開催場所：国立天文台・三鷹キャンパス

募集人数：高校生20名

内容に関する問い合わせ先：

天文情報公開センター 縣 秀彦

TEL 0422-34-3929 e-mail:h.agata@nao.ac.jp

応募先・応募に関する問い合わせ先：

日本学術振興会 ふれあいサイエンス担当

〒102-8471 東京都千代田区麹町5-3-1

http://www.jsps.go.jp/fureai/top.htm

応募締め切り：6月23日(金)必着

『高校生天体観測会・2000年プロジェクト』案内

多くの人たちに支えられた「しし座流星群全国高校生同時観測会（Leonids'98）」、「しし座流星群高校生国際観測会（Leonids'99）」は、数千人の高校生が参加する取り組みになりました。日本のみならず、世界的にもこのような教育・普及活動は、今までに例がありません。観測会によって得られた科学的成果も含め、高い評価を受けています。私たち実行委員会は、このプロジェクトをさらに発展させるため、今年も全国の高校生に呼びかけたいと思います。「本物の星空を、より多くの高校生に体験してほしい」、「学校教育、社会教育、アマチュア天文家、研究者がひとつになれるネットワークを作ろう」という目的のために、より充実した活動を目指します。今年度の観測テーマは、「7月16日皆既月食」と「しし座流星群」の二本立てです。参加登録方法などの情報は、一新されたホームページ（http://www.astro-hs.net/）をご覧になるか、成蹊高校地学研究室（〒180-8633 東京都武蔵野市吉祥寺北町3-10-13, FAX: 0422-37-3828）までお問い合わせください。

鈴木文二（Leonids'98-'99 実行委員会）

国立天文台野辺山宇宙電波観測所
「電波天文観測実習」の参加者募集

国立天文台野辺山宇宙電波観測所ではこの夏、45m電波望遠鏡を使った「電波天文観測実習」を行います。

当観測所は、45m鏡・10mミリ波干渉計を用いて多数の星間分子の発見・原始惑星系ガス円盤の検出・銀河中心にある巨大質量ブラックホールの発見など数多くの重要な研究成果をあげています。また、現在南米チリに大型ミリ波サブミリ波干渉計を作る計画を進めています。

しかし、一般には電波で行う天体観測とはどのようなものであるかはあまり知られていません。

そこで、研究の最前線で活躍中の45m鏡を使った観測実習を通して、電波天文学の実際にあふれていたものがこの「観測実習」のねらいです。参加者には普段研究者が行っている45m鏡の操作、データ取得・解析、結果のまとめをしていただきます。

特に専門知識は必要ありませんが、大学で物理実験を経験していることが望ましいです。

- 開催日程：平成12年8月28日(月)13時30分
～9月1日(金)11時30分(4泊5日)
- 場所：国立天文台野辺山宇宙電波観測所
(JR小海線野辺山駅から徒歩40分)
- 定員：12名程度
- 対象：大学の理科系学部(教育学部の理科系も含む)
に属する学生(1～4年生)
- 費用：旅費・滞在費・障害保険は自己負担
(滞在費+障害保険=6000円程度)
- 応募方法：住所、氏名、所属大学及び学部・学科、
学年、年齢、性別、電話番号、電子メールアドレス
(持っている場合)を明記の上、以下の(1)～
(4)に回答し、7月17日(月)必着で下記の応募先
まで送付。

〈設問〉

- (1) 大学で物理実験の経験がありますか？
{はい・いいえ}
- (2) (1)で「はい」と回答された場合、
一番印象に残った実験は何ですか？
- (3) 実習に参加希望の理由は何ですか？(600字以内)
- (4) この実習を何で知りましたか？
a. 雑誌 b. 新聞 c. インターネット
d. 人から e. その他(情報源を明記)

☆なお、送付された資料は返送いたしません。

- 選考結果の発表
7月25日郵便で発送
(*上記住所以外への発送を希望する場合は発送先

を明記して下さい)

- 問い合わせ先・応募先
〒384-1305 長野県南佐久郡南牧村野辺山462-2
国立天文台野辺山宇宙電波観測所「観測実習係」
TEL: 0267-98-4333

封筒に「電波観測実習応募書類在中」と朱書すること
*なお、「電波天文観測実習」の詳細についてはイン
ターネットでもご覧になれます。

URL <http://www.nro.nao.ac.jp/~nro45mrt/>

国立天文台水沢施設公開要項

- 期日：平成12年6月10日(土)
- 場所：国立天文台水沢観測センター
岩手県水沢市星ガ丘町2-12
電話 0197-22-7111
- 公開時間：10時～16時
- 公開施設：10mアンテナ、コンピューター室、木村
記念館など
- 講演会：11時～12時「21世紀へ向けて」
講師 国立天文台教授 横山紘一
- その他：ビデオ上映会、実演コーナー、展示コーナー、
クイズコーナー、質問コーナーなど

研究助成

第17回(平成12年度)井上學術賞
受賞候補者推薦要項

財団法人 井上科学振興財団

1. 候補者の対象：自然科学の基礎的研究で特に顕著な業績をあげた研究者。ただし、年齢が平成12年9月20日現在で50歳未満の研究者に限ります。
2. 学術賞：本賞(賞状及び金メダル)、副賞(200万円)授賞件数は5件以内とします。
(注)受賞者は、原則として1件につき1人とします。特に複数であることを必要とするときは、それらの研究者の寄与が同等であることを示してください。ただし、この場合においても1件として取扱います。
3. 推薦依頼先：下記の30学会、並びに当財団の理事・評議員等に推薦を依頼します。
4. 推薦件数：各推薦学会または各推薦者から、原則としてそれぞれ1件とします。
5. 提出方法：所定の推薦書用紙に必要事項を記載し、天文学会宛に提出願います。

6. 締切期日：平成 12 年 8 月 18 日(金)
 7. 選考：当財団の選考委員会において選考し、理事会において決定します。
 1. 候選考の結果は、平成 12 年 12 月中旬に推薦者に通知します。
 ★申込み用紙は天文学会事務室にあります。
 8. 学術賞の贈呈：平成 13 年 2 月 2 日(金)の予定
 9. 推薦書提出先：財団法人 井上科学振興財団
 〒 150-0033 東京都渋谷区猿楽町 11-20
 TEL: 03-3477-2738 FAX: 03-3477-2747

2001 年 1 月 31 日(水) JST15 時

〈野辺山ミリ波干渉計〉

- 第 XIV 期共同利用 (2000 年 11 月～2001 年 5 月) 観測
 ・一般共同利用締め切り：
 2000 年 7 月 5 日(水) JST15 時
 ・長期共同利用締め切り：
 2000 年 6 月 7 日(水) JST15 時
 ・Rainbow 共同利用締め切り：
 2000 年 7 月 5 日(水) JST15 時

日本数学会	日本発生物学会	日本農芸化学会
日本応用数理学会	日本分子生物学会	日本生理学会
日本物理学会	日本地震学会	日本解剖学会
日本生物物理学会	地球電磁気・地球惑星圏学会	日本神経科学学会
日本天文学会	日本気象学会	日本神経化学会
日本化学会	日本海洋学会	日本生化学会
日本動物学会	応用物理学会	日本免疫学会
日本植物学会	電子情報通信学会	日本癌学会
日本細胞生物学会	日本金属学会	日本薬学会
日本遺伝学会	高分子学会	日本薬理学会

国立天文台野辺山宇宙電波観測所
 所長 井上 允

会務案内

日本天文学会 2000 年春季年会報告

2000 年春季年会は 4 月 3 日(月)～4 月 5 日(水)の 3 日間、東京大学本郷キャンパスの 7 会場(口頭会場 6, ポスター会場 1) を使って開催された。口頭講演が 202 件, ポスター講演が 190 件あり, 合計で 392 講演であった。なお, ポストデッドライン講演は 2 件であった。今回の年会参加者は 814 名と盛況で, 牧島一夫氏を中心とする東京大学の方々の努力で順調に行われた。各会場の座長は次の方々をお願いした。

共同利用・共同研究

共同利用観測プログラム公募案内

野辺山宇宙電波観測所では、以下の観測プログラムの公募を行います。カバーシートの変更等もありますので、最新の詳しい情報はホームページ (<http://www.nro.nao.ac.jp/openuse/>) をご覧下さい。

〈野辺山 45m 鏡 及び VLBI 国内ネット〉
 第 XIX 期共同利用
 (2000 年 11 月～2001 年 5 月) 観測

- ・一般前期共同利用締め切り：
 2000 年 6 月 7 日(水) JST15 時
- ・一般後期共同利用締め切り：
 2000 年 10 月 25 日(水) JST15 時
- ・長期共同利用締め切り：
 2000 年 6 月 7 日(水) JST15 時
- ・Short Program 前期締め切り：
 2000 年 11 月 15 日(水) JST15 時
- ・Short Program 後期締め切り：

4 月 3 日(月)		4 月 4 日(火)		4 月 5 日(水)
10:00-12:00	14:00-16:00	9:30-12:00	14:30-16:00	9:30-12:00
A : 林田 清	亀野誠二	和田桂一	中川貴雄	富阪幸治
B : 縣 秀彦	伊藤孝士	中島 紀	藤本真克	松本欣也
C : 杉之原立史	唐牛 宏	寺沢敏夫	柴田一成	福島登志夫
D : 大橋隆哉	常深 博	辻 隆/清水敏文	上野 悟	横山央明
E : 出口修至	花輪知幸	嶺重 慎	祖父江義明	千葉柁司
F : 水野 亮	立松健一	小山勝二	尾崎洋二	佐藤勝彦

〈記者会見〉

春季年会の 4 月 2 日午後 1 時から、東京大学山上会館で記者会見を行い、次のトピックスについて解説した。5 社の報道機関の出席があった。

- (1) 太陽の内部を音波で見る
 柴橋博資 (東大理・教授)
 高田将郎 (ケンブリッジ大・研究員)
 講演番号: M07b

- (2) 星の誕生を告げる青いX線
 坪井陽子 (ペンシルバニア州立大学宇宙物理学
 研究科・海外特別研究員)
 小山勝二 (京都大学理学研究科・教授)
 浜口健二 (京都大学理学研究科・大学院生)
 立松健一 (国立天文台・助教授)
 関本裕太郎 (国立天文台・助教授)
 John Bally (CASA・教授)
 Bo Reipurth (CASA・Sr. Research Associate)
 講演番号: P21a
- (3) 棒状銀河バルジにおける星の流れの検出
 出口修至 (国立天文台・助教授)
 泉浦秀行 (国立天文台・助手)
 亀谷 収 (国立天文台・助手)
 浮田信治 (国立天文台・助教授)
 中田好一 (東大理・教授)
 藤井高宏 (東大理・D2)
 大坪貴文 (東大理・D2)
 中島淳一 (総研大・D1)
 講演番号: R01a
- (4) 銀河系の立体地図作りへー VERA 計画が本格スタート
 笹尾哲夫 (国立天文台・教授)
 面高俊宏 (鹿児島大理・教授)
 VERA 推進グループ
 講演番号: V34b
 関連講演番号: J03b, R19a, V24a, V35b, V36b,
 V37b, V38b, V39b, V45c
- (5) 緊急アピール ASTRO-E 衛星の再打ち上げに御
 理解を
 ASTRO-E Team
 <通常総会>
 「通常総会報告」を参照。
 <特別講演>
 特別講演として次の2つの講演が行われた。180名
 ほどの参加者があり、興味深くかつ楽しいお話を聞く
 ことができた。講演をしていただいたお二方には感謝
 の意を表したい。
 テーマ: 「宇宙論でどこまで分かったか?」
 日 時: 2000年4月5日(水) 14:30~16:30
 場 所: B会場(理学部4号館, 1220教室)
 講演I: QSO吸収線で探る宇宙初期元素合成
 講演者: David Tytler (カリフォルニア大学サン
 ディエゴ校・教授)
 講演II: 宇宙論の来し方行く末
 講演者: 須藤 靖 (東京大学・助教授)
 <ジュニアセッション>
 中学生と高校生が天文学についての研究発表をする
 ジュニアセッションを開催した。口頭発表のセッショ

ンは4月3日16時から18時まで、また会期を通じて
 ポスターでも研究が発表された。天文学会としては初
 めての試みであったが、口頭発表14件(うち12件は
 ポスターでも発表)、ポスター発表3件の合計17件
 の発表があった。口頭発表のセッションでは、参加
 者が250名ほどと非常に多く、会場に入れない人も
 多かった。また、ポスター会場でも3日間にわたり
 熱心に議論がなされた。発表の内容は、どれも熱心
 に研究されたものであり、発表の仕方も大変よか
 った。セッション参加者にはコメント用紙を配布
 して、各研究発表についてコメントを書いてもら
 った。書かれたコメントは、各発表者に送付した。
 このような試みは、今後も
 続けていきたい。

<天文教育フォーラム>

「宇宙を教室の中へー天文学の室内実験ー」とい
 うテーマで、体で感じることのできる天文学実験、
 教具、教材などの実演、展示を行なった。口頭講
 演(実演)は15本あり、「氷を使ったレンズ」、「手
 品」などの大道芸から、教室をいっぱいに使った
 「クレーター作り」の実験、従来のものより驚く
 ほど進化した「シミュレーションソフト」、ある
 いは軽妙なトークショーまで、90分ではとても
 収まりきれない盛りだくさんの内容であった。簡
 単な予稿集を150部用意したが、200名近い参
 加者があり、あっと言う間になくなってしまっ
 た。ジュニアセッションに引き続いて参加された
 方が目立った。また、今回は実演だけでなく、並
 行してポスター展示も行なったが、出展された
 16本のポスターも大盛況で、「彗星核のモデル」
 などの手作り実験アイデアの前で、活発な議論
 がなされていた。

(鈴木文二)

<公開講演会>

日本天文学会公開講演会『新しい望遠鏡が見た初
 めの宇宙』が、4月2日(日)午後2時から午後5
 時まで、東京大学安田講堂にて開催された。聴
 講者は約220名であった。講師および講演題目
 は山本 智氏(東京大学助教授)による「富士山
 頂サブミリ波望遠鏡で探る星の誕生」、家正
 則氏(国立天文台教授)による「すばる望遠鏡
 で見る遠宇宙」であった。山本氏の講演では、
 サブミリ波というあまりなじみのない電磁波に
 ついてのわかりやすい説明に続き、なぜ富士山
 に望遠鏡を作ったのか、サブミリ波を観測する
 と星の誕生の何がわかるのかということにつ
 いて説明され、その望遠鏡を使った最近の観
 測成果についてまとめられた。家氏の講演
 では、望遠鏡の発展とともに宇宙観がどのよ
 うに変わってきたのかについてのビデオ放映
 の後、すばる望遠鏡の仕組みと現状について、
 すばる望遠鏡によって得られた最新の画像デ
 ータを交えながらわかりやすく説明された。そ
 れぞれの講演の後には質問時間をとり、参加
 者からの質問を受けた。いずれ

も熱心な質問が相次ぎ、時間が足りないほどであった。

(沢 武文)

〈懇親会〉

懇親会は2日目(4月4日)の18時30分よりキャンパス内の生協第二食堂で行なわれ、約155名の参加者があった。担当の須藤 靖氏の読みがひじょうに良く、料理も飲み物も、ほぼ過不足がなかった。現地を代表して佐藤勝彦教授(理学系物理学専攻)、また次期開催地を代表してぐんま天文台の古在由秀台長から、挨拶を頂いた。(株)エイ・イー・エスよりご芳志を、東大生協専務殿より清酒の差入れを頂いたことを感謝する。

(牧島一夫)

〈保育室〉

今回は保育室利用の申込はなかった。これは開催地と時期および偶然によるものである。前回の年会では申込数が最高となり、大局的にみれば利用者数は増えているので、保育室のニーズがなくなったわけではない。今後とも年会では保育室を設置する予定である。

(加藤万里子)

(年会実行委員長:吉川 真)

通常総会報告

2000年(平成12年)4月4日(金)16:30~18:20
於:東京大学本郷キャンパス 理学部4号館

議長:尾崎洋二

議事に先立ち出席者数の確認がなされた。事前投票総数は291、総会出席者は153である。出席者のうちで事前投票をした18人は、事前投票の方を無効とした。従って有効出席者総数は426で、定足数(正会員総数1399人の5分の1=277)を満たすことを確認した。次に署名人として井上一氏、山本 智氏が選出された。続いて各賞の授与式が行われ、以下の方々にそれぞれの賞が授与された。

●天体発見賞:

天体発見賞選考委員会の選考を経て、以下の5件5名に天体発見賞が贈呈された。

山本 稔氏:いて座に新星(Nova Sgr 1999 = V4444 Sgr)を発見

多胡昭彦氏:わしに新星(Nova Aql 1999 = V1493 Aql)を発見

青木昌勝氏:ろ座に超新星(SN 1999eu)を発見

高見沢今朝雄氏:うみへび座に超新星(SN 1999gh)を発見

串田麗樹氏:おおぐま座に超新星(SN 1999gi)を

発見

●天体発見功労賞:

天体発見賞選考委員会の選考を経て、以下の1件1名に天体発見功労賞が贈呈された。

串田麗樹氏:かに座に超新星(SN 1999aa)を独立発見

●林忠四郎賞・欧文報告論文賞:

林忠四郎賞選考委員会の選考を経て、林忠四郎賞が以下の1件1名に、また欧文報告論文賞が1件8名に贈呈された。

○林忠四郎賞

中島 紀氏:低温褐色矮星の発見

○欧文報告論文賞

小山勝二氏、衣笠健三氏、松崎恵一氏、西内満美子氏、松崎睦氏、鳥居 研一氏、山内茂雄氏、Bend ASCHENBACH氏: Discovery of Non-Thermal X-Ray from the Northwest Shell of the New SNR RX J1713.7-3946: The Second SN 1006? (Publ. Astron. Soc. Japan, vol. 49, 1997, pp. L7-L11.)

議事の経過および結果

1. 1999年度天文学会事業報告(第1号議案)を大石庶務理事が行った。質疑応答の後賛否を問い、賛成多数で承認された。
2. 1999年度天文学会会計報告(第2号議案)を立松会計理事が行った。その後監査報告を杉本監事が行なった。質疑応答の後賛否を問い、賛成多数で承認された。
3. 2000~2003年度の評議員候補者名簿が大石庶務理事より提示された。質疑応答の後賛否を問い、賛成多数で承認された。
4. その他

(1) 独立行政法人化に関する天文学研究連絡会議との共同声明を約200の関係機関に送付したことが大石庶務理事から報告された。これに関連して質疑応答が行われ、文部省など政府関係機関にも共同声明を送付することとした。

(2) ASTRO-Eの打ち上げに関して、宇宙科学研究所の井上一氏から説明があった。

(3) 国立天文台の福島登志夫氏から春季年会は3月中に開催してほしいという要望が寄せられた。

(なお、議案の内容は天文月報第93巻3月号をご参照下さい。)

大石雅寿(庶務理事)